

総合診療学演習【臨床実習】

6 年次 前期 必修 6 単位

担当責任者 権太 浩一（所属：形成外科学教室）
担 当 者 中島 一郎・藤盛 寿一（所属：脳神経内科学教室）
城田 祐子（所属：内科学第三（血液・リウマチ科）教室）
菅野 厚博（所属：老年・地域医療学教室）
下平 秀樹（所属：腫瘍内科学教室）
佐々木 雅史（所属：医学教育推進センター）

ねらい

実地診療下での臨床推論の能力を修得する

学修目標

1. 医療面接で病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活歴・職業歴等）を適切に聴取できる[F-3-2)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]
2. 系統的・効率的に身体診察を行い、異常所見を認識・記録できる[F-3-2)・3)、F-3-5)-(1)～(8)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]
3. 医療面接および身体診察結果から、適切な鑑別診断を挙げられる[F-3-1)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]
4. 挙げられた鑑別診断に基づいて、適切な検査計画を立てられる[F-3-4)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]
5. 得られた情報・所見・検査結果を統合して、鑑別診断を絞り込むことができる[F-3-4)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]
6. 推定診断に応じた治療計画を立てることができる[F-3-1)・4)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]
7. 患者の病状（症状、身体所見、検査所見等）、プロブレムリスト、鑑別診断・確定診断、治療計画を他の医療者に伝達・報告できる
[F-3-2)、G-1-1)-(1)～(3)、G-2-1)～37)]

カリキュラム・ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー		関連	カリキュラム・ポリシー		関連
1	心豊かな人間性を備える倫理教育	◎	6	問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表	◎
2	講義と地域体験学習の連動性	◎			
3	地域滞在型教育	○	7	関連科目間の横断的および縦断的統合	◎
4	地域医療の理解から総合診療力の養成	○	8	アウトカム基盤型教育と適切な学習評価の実施	◎
5	救急・災害医療に対応できる医師の養成	◎	9	医学教育の国際化に対応した教育	◎

【◎…関連が特に深い項目 ○…関連する項目 空欄…評価の対象外】

コンピテンシー【科目到達レベル】

コンピテンシー		到達レベル	コンピテンシー		到達レベル
I	倫理観と社会的使命	A	V	診療の実践	A
II	人間関係の構築	A	VI	社会制度の活用と予防医学の実践	A
III	チーム医療の実践	A	VII	科学的探究と生涯学習	A
IV	医学および関連領域の基本的知識	A	VIII	地域における医療とヘルスケア	A

授業計画・内容

回	担 当 者	項 目	内 容	学修目標
第 1-90 回	権太 浩一 他	基本的な症候の臨床推論	病歴や身体所見を収集し、その医療情報を基にして病態の診断へ至るための臨床推論を行う能力を身につける。さらに、確定診断のために追加的な検査が必要な場合には、その検査計画を立てる能力も養う。	1～7

授業形態

- ・内科的身体診察や神経系診察の方法についての座学講義
- ・臨床技能試験形式の対面演習（模擬患者に対して医療面接と身体診察をおこない、得られた医療情報を整理・要約し、それらをもとに臨床推論をおこなって教員に対して報告する／それらの技能を教員によって評価される）
- ・臨床推論の準備のための自習（指定された症候から考えられる鑑別診断を挙げて、リストを作成する）
- ・臨床推論の実践のための e ラーニング（過去の医師国家試験を症候ごとに再編した Moodle クイズを web 上から回答する）

成績評価方法

対面演習における評価点 70%、鑑別診断リストのレポート評価点 30% （Moodle クイズの正誤成績は、科目成績には反映されない）

教科書

これまで学習した基礎医学・社会医学・臨床医学の教科書

参考書

なし

他科目との関連
これまで学習した基礎医学・社会医学・臨床医学のすべての科目、特に診療科臨床実習と関連する
学生へのメッセージ（準備学習（予習）・復習）
予習：各授業でテーマとする症候について、鑑別すべき疾患を整理してリストを作成しておく。このリストは、各指定日にレポートとして提出すること。 復習：各症候ごとに、演習終了後に 30 分程度かけて、医療面接・身体診察・検査計画立案・診断確定の臨床推論などの思考過程を振り返り確認すること。
課題（試験やレポート等）に対するフィードバック
対面演習の翌日に、課題の症例やテーマとなった症候・疾患についての解説授業を行う。臨床推論のロジック・アルゴリズムを説明したうえで、模範的な医療面接・身体診察の実技を例示し、また学生のプレゼン内容およびプレゼン技術、臨床推論の問題点について全体的なフィードバックを行う。解説授業開始前に解説資料を科目フォルダにアップする。
学生の主体的な学びを促進する『アクティブ・ラーニング』の実施
本科目は演習科目のため、全日程を通じて「自ら体験する」アクティブ・ラーニング（体験型学習）となっています。周囲の人との関わりを大切にし、主体的に学ぶ姿勢を持って取り組んで下さい。
オフィスアワー
福室：第 1 教育研究棟 5 階 形成外科学教授室 月・火・水曜日 17：30～19：00 訪問前に必ずメールでアポイントを取ってください。
実務経験との関連性
科目担当者は主として大学病院等における勤務経験・学生指導経験を活かし授業を行う。（実務経験を有する教員一覧は巻頭参照）

【臨床実習】

担当責任者 古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）

担 当 者 住友 和弘・大原 貴裕・藤川 祐子・植田 寿里・石木 愛子（所属：老年・地域医療学教室）

《地域医療ネットワーク病院担当者》

【宮城県】 石巻赤十字病院／安田 勝洋（所属：腫瘍内科学教室）

登米市立登米市民病院／住友 和弘（所属：老年・地域医療学教室）

栗原市立栗原中央病院／伊藤 修（所属：リハビリテーション学教室）

気仙沼市立病院／鈴木 貴博（所属：耳鼻咽喉科学教室）

石巻市立病院／大原 貴裕（所属：老年・地域医療学教室）

みやぎ県南中核病院／児山 香（所属：外科学第一（消化器外科）教室）

大崎市民病院／安達 彩（所属：眼科学教室）

南三陸病院／石山 勝也（所属：内科学第三（腎臓・高血圧内科）教室）

国立病院機構宮城病院／古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）

【青森県】 青森県立中央病院／石橋 直也（所属：外科学第二（呼吸器外科）教室）

八戸市立市民病院／今井 悠（所属：感染症学教室）

【秋田県】 平鹿総合病院／藤盛 寿一（所属：脳神経内科学教室）

大曲厚生医療センター／佐藤 輝幸（所属：耳鼻咽喉科学教室）

【岩手県】 岩手県立中央病院／渡部 剛（所属：外科学第三（乳腺・内分泌外科）教室）

岩手県立大船渡病院／古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）

岩手県立胆沢病院／石木 愛子（所属：老年・地域医療学教室）

【山形県】 山形市立病院済生館／丹治 泰裕（所属：内科学第二（糖尿病代謝・内分泌内科）教室）

公立置賜総合病院／皆川 忠徳（所属：心臓血管外科学教室）

鶴岡市立荘内病院／千葉 晋平（所属：整形外科学教室）

【福島県】 白河厚生総合病院／高須 充子（所属：内科学第二（消化器内科）教室）

いわき市医療センター／諸角 謙人（所属：泌尿器科学教室）

ねらい

地域の文化・社会生活様式と公衆衛生的な特徴の理解に基づいた医療を地域医療機関で安全・安心かつ効果的に提供する能力を身につける。

学修目標

1. 地域医療の中で頻度の高い疾患について診断、治療に必要な知識、技能、態度を修得する。[A-3-1]]、[F-3-3]]、[G-1-1] ～G-4-3]]
2. 滞在する地域の社会・生活環境、医療ニーズを理解し、適切な医療を提供できる。[B-4-1]]、[G-4-1] ～3)]
3. 地域医療において患者の生活状況や社会背景も考慮する総合診療能力を修得する。
[A-3-1]]、[B-4-1]]、[F-3-3]]、[G-1-1]]、[G-4-1] - (6) (7)]、[G-4-3]]

カリキュラム・ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー		関連	カリキュラム・ポリシー		関連
1	心豊かな人間性を備える倫理教育	○	6	問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表	○
2	講義と地域体験学習の連動性	◎			
3	地域滞在型教育	◎	7	関連科目間の横断的および縦断的統合	○
4	地域医療の理解から総合診療力の養成	◎	8	アウトカム基盤型教育と適切な学習評価の実施	○
5	救急・災害医療に対応できる医師の養成	○	9	医学教育の国際化に対応した教育	

【◎…関連が特に深い項目 ○…関連する項目 空欄…評価の対象外】

コンピテンシー【科目到達レベル】

コンピテンシー		到達レベル	コンピテンシー		到達レベル
I	倫理観と社会的使命	A	V	診療の実践	A
II	人間関係の構築	A	VI	社会制度の活用と予防医学の実践	A
III	チーム医療の実践	A	VII	科学的探究と生涯学習	A
IV	医学および関連領域の基本的知識	A	VIII	地域における医療とヘルスケア	A

授業計画・内容

回	担 当 者	項 目	内 容	学修目標
第 1-64 回	古川 勝敏 他	東北 6 県のネットワーク病院での臨床実習	各地域に滞在し、ネットワーク病院の医師の指導のもと、医療チームの一員として、外来および入院患者の診療に従事する。具体的には、医療面接・身体診察・臨床検査による患者情報の収集と解析に基づく鑑別診断と治療計画の策定を実施し、その内容を記録し、患者・家族に説明および指導医に報告する。また、その地域に特徴的な生活様式、疾患、保健福祉活動について学習する。診療に従事する際には、常に医療安全に留意し、患者・家族との水平な関係および医療スタッフとの信頼関係の構築に努める。	1, 2, 3

授業形態

診療参加型臨床実習

成績評価方法

ネットワーク病院からの評価をもとに、医学知識の確認試験結果も加味し、臨床実習成績判定委員会において総合的に判定される。

教科書

これまで学修した基礎医学、社会医学、臨床医学の教科書

参考書

なし

他科目との関連

これまで学修した基礎医学、社会医学、臨床医学のすべての科目、特に地域医療学、介護・在宅医療学、僻地・被災地医療体験学習 I および II、介護・在宅医療体験学習、診療科臨床実習に関連する。

学生へのメッセージ（準備学習（予習）・復習）

これまでの講義・体験学習と大学病院での診療科臨床実習で、医師として必要とされる基本的な知識・技能・態度を修得してきたと思います。ここでは、これまで皆さんが 2,3 年生の時に訪問したネットワーク病院での臨床実習になります。それぞれのネットワーク病院において、配属された診療科の診療行為に積極的に参加し、踏み込んだ地域医療の実践を学んでください。皆さんには医師として必要な人間性・社会性・能力を身に着け、本実習で地域医療を含む上記 8 つのコンピテンシー（能力）において達成レベル「A」となることが求められます。毎日、実習する病院で頻度の高い疾患について準備学習 1 時間、復習 1 時間を実施すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

ネットワーク病院において指導医が実習内容について質疑応答を行う。

学生の主体的な学びを促進する「アクティブ・ラーニング」の実施

- ・各実習先の施設において、必ず指導する医師や医療スタッフに学生から質問をして双方向のディスカッションを遂行する。
- ・体験学習終了後、レポート作成、グループディスカッション、発表会を遂行する。

オフィスアワー

ネットワーク病院の指導医に確認すること。

担当責任者(古川勝敏)については、医学部教育研究棟・教授室 月、水、木、金曜日 午後 4 時以降

実務経験との関連性

科目担当者は主として大学病院などにおける勤務経験、専門分野を活かし授業を行う。（実務経験を有する教員一覧は巻頭参照）

地域包括医療実習

【臨床実習】

担当責任者 古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）

担 当 者 住友 和弘・大原 貴裕・藤川 祐子・植田 寿里・石木 愛子（所属：老年・地域医療学教室）

《地域医療ネットワーク病院担当者》

【宮城県】 石巻赤十字病院／安田 勝洋（所属：腫瘍内科学教室）

登米市立登米市民病院／住友 和弘（所属：老年・地域医療学教室）

栗原市立栗原中央病院／伊藤 修（所属：リハビリテーション学教室）

気仙沼市立病院／鈴木 貴博（所属：耳鼻咽喉科学教室）

石巻市立病院／大原 貴裕（所属：老年・地域医療学教室）

みやぎ県南中核病院／児山 香（所属：外科学第一（消化器外科）教室）

大崎市民病院／安達 彩（所属：眼科学教室）

南三陸病院／石山 勝也（所属：内科学第三（腎臓・高血圧内科）教室）

国立病院機構宮城病院／古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）

【青森県】 青森県立中央病院／石橋 直也（所属：外科学第二（呼吸器外科）教室）

八戸市立市民病院／今井 悠（所属：感染症学教室）

【秋田県】 平鹿総合病院／藤盛 寿一（所属：脳神経内科学教室）

大曲厚生医療センター／佐藤 輝幸（所属：耳鼻咽喉科学教室）

【岩手県】 岩手県立中央病院／渡部 剛（所属：外科学第三（乳腺・内分泌外科）教室）

岩手県立大船渡病院／古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）

岩手県立胆沢病院／石木 愛子（所属：老年・地域医療学教室）

【山形県】 山形市立病院済生館／丹治 泰裕（所属：内科学第二（糖尿病代謝・内分泌内科）教室）

公立置賜総合病院／皆川 忠徳（所属：心臓血管外科学教室）

鶴岡市立荘内病院／千葉 晋平（所属：整形外科学教室）

【福島県】 白河厚生総合病院／高須 充子（所属：内科学第二（消化器内科）教室）

いわき市医療センター／諸角 謙人（所属：泌尿器科学教室）

ねらい

地域の文化・社会生活様式と公衆衛生的な特徴の理解に基づいた地域包括的な医療を安全・安心かつ効果的に提供する能力を身につける

学修目標

1. 地域医療の中で頻度の高い疾患について診断、治療に必要な知識、技能、態度を修得する。[A-3-1]]、[F-3-3]]、[G-1-1] ～G-4-3]]
2. 滞在する地域の社会・生活環境、医療ニーズを理解し、適切な医療を提供できる。[B-4-1]]、[G-4-1] ～3)]
3. 介護施設、診療所、地域包括支援センター、保健所等での活動に参加し、多職種と共同して地域包括医療を提供できる。
[A-3-1]]、[B-4-1]]、[F-3-3]]、[G-1-1]]、[G-4-1] - (6) (7)]、[G-4-3]

カリキュラム・ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー		関連	カリキュラム・ポリシー		関連
1	心豊かな人間性を備える倫理教育	○	6	問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表	○
2	講義と地域体験学習の連動性	◎			
3	地域滞在型教育	◎	7	関連科目間の横断的および縦断的統合	○
4	地域医療の理解から総合診療力の養成	◎	8	アウトカム基盤型教育と適切な学習評価の実施	○
5	救急・災害医療に対応できる医師の養成	○	9	医学教育の国際化に対応した教育	

【◎…関連が特に深い項目 ○…関連する項目 空欄…評価の対象外】

コンピテンシー【科目到達レベル】

コンピテンシー		到達レベル	コンピテンシー		到達レベル
I	倫理観と社会的使命	A	V	診療の実践	A
II	人間関係の構築	A	VI	社会制度の活用と予防医学の実践	A
III	チーム医療の実践	A	VII	科学的探究と生涯学習	A
IV	医学および関連領域の基本的知識	A	VIII	地域における医療とヘルスケア	A

授業計画・内容

回	担 当 者	項 目	内 容	学修目標
第 1-128 回	古川 勝敏 他	東北 6 県のネットワーク病院と連携している介護施設、診療所（在宅）、訪問看護ステーションおよび保健所等での臨床実習	各地域に滞在し、地域の医療チームの一員として、ネットワーク病院、介護施設、診療所（在宅）、訪問看護ステーション、保健所等においてそれぞれの活動に参加し、活動内容を学習する。特にネットワーク病院と介護施設や診療所間での患者の紹介・受け入れの実践を体験・学習する。また、介護施設や在宅における診療活動に積極的に参加しその実践を学ぶ。診療に従事する際には、常に医療安全に留意し、患者・家族との水平な関係および医療スタッフとの信頼関係の構築に努める。	1, 2, 3

授業形態

診療参加型臨床実習

成績評価方法

ネットワーク病院からの評価をもとに、医学知識の確認試験結果も加味し、臨床実習成績判定委員会において総合的に判定される。

教科書

これまで学修した基礎医学、社会医学、臨床医学の教科書

参考書

なし

他科目との関連

これまで学修した基礎医学、社会医学、臨床医学のすべての科目、特に地域医療学、介護・在宅医療学、僻地・被災地医療体験学習 I および II、介護・在宅医療体験学習、診療科臨床実習に関連する。

学生へのメッセージ（準備学習（予習）・復習）

これまでの講義・体験学習と大学病院での診療科臨床実習で、医師として必要とされる基本的な知識、技能、態度を修得してきたと思います。ここでは、これまで皆さんが 2,3 年生の時に訪問したネットワーク病院とその関連施設での医療実習になります。院外の介護施設、訪問看護ステーション、診療所（在宅）、保健所などでの実習を積むことにより踏み込んだ地域包括医療の実践を学んで下さい。皆さんはそれぞれ配属された施設において、そこでの医療活動に積極的に参加して下さい。皆さんには医師として必要な人間性・社会性・能力を身に着け、本実習で地域医療を含む上記 8 つのコンピテンシー（能力）において達成レベル「A」となることが求められます。毎日、実習する施設における医師の役割・業務について準備学習 1 時間、復習 1 時間を実施すること。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

実習施設において指導教員が実習内容について質疑応答を行う。

学生の主体的な学びを促進する「アクティブ・ラーニング」の実施

- ・各実習先の施設において、必ず指導する医師や医療スタッフに学生から質問をして双方向のディスカッションを遂行する。
- ・体験学習終了後、レポート作成、グループディスカッション、発表会を遂行する。

オフィスアワー

各施設の指導教員に確認すること。担当責任者(古川勝敏)については、医学部教育研究棟・教授室 月、水、木、金曜日 午後 4 時以降

実務経験との関連性

科目担当者は主として大学病院などにおける勤務経験、専門分野を活かし授業を行う。（実務経験を有する教員一覧は巻頭参照）

統括講義【統括講義】

6 年次 後期 必修 36 単位

担当責任者 中村 豊（所属：医学教育推進センター）

担 当 者 目時 弘仁（所属：衛生学・公衆衛生学教室）、伊藤 弘人（所属：医療管理学教室）、
高木 徹也（所属：法医学教室）、手塚 則明（所属：医療安全学教室）、
熊谷 浩司（所属：内科学第一（循環器内科）教室）
廣田 衛久・佐藤 賢一（所属：内科学第二（消化器内科）教室）、
澤田 正二郎・中村 はな（所属：内科学第二（糖尿病代謝・内分泌内科）教室）、
森 建文（所属：内科学第三（腎臓・高血圧内科）教室）、
古川 勝敏（所属：老年・地域医療学教室）、中島 一郎（所属：脳神経内科学教室）
城田 祐子・市川 聡・亀岡 淳一・石井 智徳（所属：内科学第三（血液・リウマチ科）教室）、
遠藤 智之（所属：救急・災害医療学教室）
遠藤 史郎（所属：感染症学教室）、徳永 英樹・渡部 洋（所属：産婦人科学教室）、
森本 哲司（所属：小児科学教室）、川本 俊輔（所属：心臓血管外科学教室）、
菅野 晴夫（所属：整形外科科学教室）、中川 誠秀（所属：精神科学教室）、
池田 高治（所属：皮膚科学教室）、高橋 秀肇（所属：眼科学教室）、
太田 伸男（所属：耳鼻咽喉科学教室）、海法 康裕（所属：泌尿器科学教室）、
高橋 伸一郎（所属：臨床検査医学教室）、石川 陽二郎（所属：放射線医学）
有川 智博・宮坂 智充・穴戸 史・豊島 かおる・佐々木 雅史（所属：医学教育推進センター）

ねらい
医師として求められる基本的な資質・能力の修得を確認するために、6 年次前期までの社会医学、臨床医学の講義および臨床実習により修得した知識・技能・態度を総括し、各専門領域の専門性・独自性とそれらの統合的応用としての医療を理解する。

学修目標	
1.	豊かな人間性と高い倫理観を有し、社会的使命を果たす確固たる意志をもって、患者中心の医療を実践できる。[A-1]
2.	他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築し、医療の現場で適切なコミュニケーションを実践することができる。[A-4]
3.	多種多様な医療チームのメンバーを理解・尊重し、協同作業の中で、医師としての役割を果たすことができる。[A-5]
4.	基本的医学知識および薬学、生命科学などの関連領域の知識を示すことができる。[A-2]
5.	診療技能に加え、患者背景および医療安全への配慮を含めた全人的な診療を実践できる。[A-3,6]
6.	保健・医療・福祉の社会制度を理解し、その活用により疾病の予防や健康増進を実践することができる。[A-7]
7.	豊かな感性と批判的精神で真理を求め、自分の意見を的確に発信し、自らの能力の継続的な向上を図ることができる。[A-8,9]
8.	地域における医療のニーズと現状を理解し、地域社会の医療資源を活用した包括的医療を実践できる。[B-1-7),8), B-4]

カリキュラム・ポリシーとの関連性

カリキュラム・ポリシー		関連	カリキュラム・ポリシー		関連
1	心豊かな人間性を備える倫理教育		6	問題基盤型学習や双方向教育、グループ討論・発表	◎
2	講義と地域体験学習の連動性				
3	地域滞在型教育		7	関連科目間の横断的および縦断的統合	◎
4	地域医療の理解から総合診療力の養成	○	8	アウトカム基盤型教育と適切な学習評価の実施	◎
5	救急・災害医療に対応できる医師の養成	○	9	医学教育の国際化に対応した教育	○

【◎…関連が特に深い項目 ○…関連する項目 空欄…評価の対象外】

コンピテンシー【科目到達レベル】

コンピテンシー		到達レベル	コンピテンシー		到達レベル
I	倫理観と社会的使命	A	V	診療の実践	A
II	人間関係の構築	A	VI	社会制度の活用と予防医学の実践	A
III	チーム医療の実践	A	VII	科学的探究と生涯学習	A
IV	医学および関連領域の基本的知識	A	VIII	地域における医療とヘルスケア	A

授業計画・内容

回	担 当 者	項 目	内 容	学修目標
第 1-287 回	中村 豊 他	社会医学および臨床医学	社会医学および臨床医学の講義および臨床実習により修得した知識の総括とその応用	1～8
第 288-343 回	中村 豊 佐藤 賢一 他	臨床医学	医療面接、身体所見、検査の選択と結果の解釈を用いた臨床推論・臨床判断の実践	1～8
第 345-540 回	中村 豊 目時 弘仁 他	社会医学および臨床医学	社会医学および臨床医学の講義および臨床実習により修得した知識の総括とその応用	1～8

授業形態

講義、演習

成績評価方法

試験は 100 点満点中 60 点以上かつ演習技能は 100 点満点中 60 点以上で合格とし、総合的に評価する。

教科書

これまで履修した科目の教科書

臨床研修開始時に必要とされる技能と態度に関する学修・評価項目（第 1.2 版）
（公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 2021）

参考書

「Harrison’s principles of internal medicine 21st edition」（McGraw Hill education）
「内科診断学（第 3 版）」（医学書院）
「医学生のための基本的臨床手技」（診断と治療社）

他科目との関連

社会医学と臨床医学の全ての科目と関連し、講義と演習を通じて卒後臨床研修に必要な知識・技能・態度を身につけます。

学生へのメッセージ（準備学習（予習）・復習）

統括講義は卒前教育の中で最後に実施される科目です。クリニカルクラークシップにおいて学修した技能・態度と社会医学的知識とを統括し、学生が研修プログラムヘシームレスに移行できることを目的としています。講義実施前に科目フォルダへ掲載する資料を使い 120 分程度予習を行って下さい。また授業当日中に 60 分程度必ず復習し、講義で使用した資料は卒前卒後の学習に活用して下さい。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

試験の問題冊子はもち返りグループ学習と自己学習に役立てて下さい。試験後、問題と解答について質問がある場合は統括講義科目担当責任者へ連絡して下さい。科目担当責任者から出題者に問い合わせ数日以内に書面で回答します。

学生の主体的な学びを促進する『アクティブ・ラーニング』の実施

2 人組で意見交換・議論を行、その後グループでディスカッションを行います。（シンク・ペア・シェア）（毎回）

オフィスアワー

中村豊：福室第 1 教育研究棟 3 階 医学教育推進センター 月～水曜日 16：00～20：00、木・金曜日 18:00～20:00
訪問前にメールでアポイントをとってください。

実務経験との関連性

科目担当者は主として大学病院などにおける勤務経験、専門分野を活かし授業を行います。（実務経験を有する教員一覧は巻頭参照）